

金沢大学広報誌

[アカンサス]

# Acanthus

57

2025  
AUTUMN

「PRESENT」  
金沢大学オリジナルQUOカード



抽選で10名様

金沢大学の最新情報を紹介!

**NEWS&TOPICS**

学生のための連載企画

**Enjoy!!**

Acanthus学生アワード

課外活動団体SNAP

予測不可能な時代への挑戦

金沢大学の**研究と**  
**社会実装**の最前線



# 特集 予測不可能な時代への挑戦

急速に変化する社会、複雑化する課題、そして不確実性が増す世界。そんな時代において、大学は「知」を育み、社会に実装する拠点として、これまで以上に重要な役割を担っています。金沢大学から生まれたベンチャー企業、研究者の取り組み、そして学生たちの挑戦を通して、現代の課題を解決し、未来の課題を探索し克服する「未来知」の力に迫ります。

Design: POLUX Text: Public Relations strategy office staff

## Part 1 金沢大学の研究と社会実装の最前線

金沢大学は、予測不可能な時代の社会変革を主導する世界的なイノベーションの拠点となるべく、日々、基礎・応用・融合研究を一体的に推進し、絶え間なく「知」を創造しています。さらに、「未来知実証センター」を要に、研究成果を社会に届けるための実証研究が加速しています。ここでは、研究者たちが挑む最前線の現場を紹介します。



## 金沢大学発スタートアップ「ムービーズ」

### 悪天候でも安全に走行できる自動運転の実現へ

株式会社ムービーズ  
事業開発部

松本 圭司さん  
MATSUMOTO Keishi

株式会社ムービーズ 取締役  
融合研究域融合科学系

米陀 佳祐 准教授  
YONEDA Keisuke

株式会社ムービーズ  
研究開発部

金子 法子さん  
KANEKO Noriko

金沢大学認定ベンチャーである株式会社ムービーズは、高度モビリティ研究所の菅沼直樹教授が25年以上にわたり開発を手掛けてきた自動運転技術を社会に実装することを目指しています。今回は菅沼先生と共に活躍する米陀先生と社員のお二人にお話を伺いました。

**Q ムービーズ設立のきっかけを教えてください。**

米陀: これまで10年間、石川県や東京都、北海道などの幅広い地域で実証実験を進めてきました。ここで培ってきた技術をさらに発展させて多くの人に届けたいと思い、設立を決意しました。そこからわずか2〜3カ月後、2024年6月に法人化しました。



金沢大学認定ベンチャーの称号を授与される(株)ムービーズ代表取締役・高度モビリティ研究所の菅沼教授(中央)

**Q 大学発スタートアップとしてのメリットは?**

米陀: 金沢大学が100%出資するベンチャーキャピタル「ビジョンインキュベイト」の支援があれば、立ち上げは難しかったです。もともと菅沼先生が始めた研究がきっかけで、2021年に高度モビリティ研究所が設立され、他の研究者との連携が進んでいます。法人化したことで、大学の枠を超えた専門性を持つ松本さん、金子さんが参画し、事業の幅がさらに広がっています。

**Q お二人の役割は?**

松本: 私は事業開発、具体的には特許や海外展開、資金調達、法務などを担当しています。前職で、現地政府との調整などをしてきた経験が今に生きています。

金子: 私は、大学で培った技術を、事業フェーズに展開するのが主な役割です。大学の研究室では難しかった規模の研究でも、外部資金や多様な人材の力を得て実現可能になっています。

**Q ムービーズの技術的な強みは?**

米陀: 一般的な自動運転は高精度な3D地図が必要ですが、ムービーズは簡易な2D



千葉県の幕張新都心にて、ロボットタクシー事業の実証試験を実施。配車アプリを利用して車両を呼び出します。

地図で走行可能な点です。さらに、雪道での自動運転技術の開発も大きな強みです。雨や雪がセンサーにノイズを与えるので、それを抑えるセンシング技術を開発しています。積雪によって走行特性が変わることにとも対応しています。

**Q 現在は、ロボットタクシー(以下、ロボタク)事業を進めているのですか?**

松本: 有人、さらに無人のロボタクを目指し、今年2月に実証実験を行いました。実際の走行環境で課題を検証しています。

米陀: ロボタクの実用化には、車の配車アプリと、車を遠隔監視する仕組みの開発も必要です。地方の移動課題に貢献できる技術を、社会に届けたいです。



## 世界で使われる日本発の薬創りに エクソソームで挑む



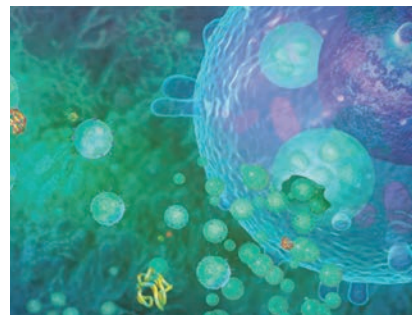
ナノ生命科学研究所  
華山 力成 教授  
HANAYAMA Rikinari

### Q エクソソームとは？

華山：エクソソームは、さまざまな細胞から出るシャボン玉のような小さな粒子です（下イメージ図参照）。細胞同士がコミュニケーションするためのメッセージカプセルのようなもので、由来する細胞の情報や物質を運ぶ役割を持っています。そのため、エクソソームにはがんなどの病気の原因となる因子が含まれることもあり、エクソソームを調べることで病気の診断や治療効果の判定に役立つことが期待されています。

### Q そのエクソソームで、どんな薬を創ろうとしているのですか？

華山：エクソソームに複数の免疫制御分



子を搭載して必要な場所に届けることで、免疫細胞を制御して、がんや自己免疫疾患、アレルギーなどに対して治療する薬です。それには複数の分子を同時に届ける必要があるのですが、現在の技術では複数の分子をまとめて届けることができません。複数の分子が別々に働き、意図しない免疫細胞に作用して、副作用が起きてしまうことが課題となっています。エクソソームを使えば、意図した免疫細胞にのみ作用し、副作用の少ない新しいタイプの薬が創れるかもしれません。

### Q 創薬ベンチャーとしての起業を視野に入れていますか？

華山：はい。創薬はリスクが高く、企業は創薬をしたベンチャーをM&Aで買い取る流れが世界的に進んでいます。この薬を社会に出すためには、自分でやるしかないのです。

### Q 金沢大学の支援体制についてはどのように感じていますか？

華山：企業との連携が強い本学だからこそ、協力してくれる企業と出会えました。ナノ生命科学研究所にある世界最高レベル



エクソソームの高純度精製法を開発し、解析キットが世界販売されています。取得した技術の特許は今回の薬創りにも生かされます。

の原子間力顕微鏡は、エクソソームの長期保存法の研究において大きな役割を果たしています。

### Q 創薬にかかる思いを、あらためて聞かせてください。

華山：現在、世界で最も使われている医薬品に、日本発のものはほとんどありません。北陸から世界で使われる、未来の医療を実現する薬を創る。そして、我々がよいロールモデルとなり“やればできる”を示したい。それが私の使命です。エクソソームという新しい器に金沢の知と志を結集し、世界の患者さんに希望を届けることを目指しています。

## 治療用アプリで摂食障害治療に革新を起こす



附属病院神経科精神科  
亀谷 仁郁 助教  
KAMEYA Masafumi

融合研究域融合科学系  
野村 章洋 教授  
NOMURA Akihiro

### Q 開発されている摂食障害の治療用アプリはどのようなものですか？

亀谷：摂食障害には有効な治療薬がなく、通常カウンセリングなどの心理的アプローチと身体管理から治療を進めます。このアプリは、患者さん自身が食事や感情などを記録できる機能と教育プログラムを備えたもので、治療に利用したいと考えています。

### Q 紙での記録と比べて、アプリにはどのような利点がありますか？

亀谷：紙だと人に見られる不安から記録できない方も多いのですが、アプリではプライバシーが守られ、手軽なため、記録のハードルが下がります。実際、紙では記録できなかった



アプリと連動できる体重計のデモ機

た患者さんが、アプリでは2カ月間、ほぼ毎日記録を継続できました。医師側も、AIによる診療情報の要約と解析によって診療負担が軽減されます。

### Q 現在の開発状況はいかがですか？

野村：今年度中に安全性試験を実施、来年度に探索的試験を予定しています。将来的には治験を経て、医療機器としての認可を目指します。プロトタイプはすでに完成しており、今後アップデートを進めます。

### Q 金沢大学ならではの強みは？

亀谷：附属病院は、2022年、全国で5カ所目の摂食障害支援拠点病院として指定され、治療の環境が整っており、臨床での経験や知見をアプリに取り入れています。

野村：本学では、実証研究や社会実装への支援体制が整っており、TeSH GAPファンドプログラム(※)の採択を機に、外部との連携も広がりました。

### Q 今後の展望について教えてください。

亀谷：摂食障害は全国で数百万人が悩んでいるとされ、コロナ禍でさらに増加しまし



た。学校や家庭でも対応に苦慮されている現状があります。だからこそ、臨床現場と連携しながら、患者さんの人生に寄り添える支援を社会に届けたいと思っています。

野村：数年以内にスタートアップを立ち上げ、治験を経て保険適用を目指します。私は附属病院循環器内科の医師でもあるので、医療とテクノロジーの融合であるデジタル療法(DTx)は、今後の医療のあり方を変える可能性があると考えています。本学の支援体制が整っている今だからこそ、挑戦する価値があります。

※TeSH(Tech Startup HOKURIKU)は、金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)が主幹機関となり、北陸地域の13大学・3高等専門学校の研究成果を基にしたスタートアップの創出を目指すプラットフォームです。本件が採択されたTeSH GAPファンドプログラム・ステップ1では、基礎研究の成果に対して、ビジネスとしての可能性を見極め、事業化に向けた第一歩を支援します。



## ギ酸燃料電池を災害時の非常用電源へ

理工研究域機械工学系

辻口 拓也 教授  
TSUJIGUCHI Takuya



ギ酸から電気を取り出すための触媒(左)とそれを塗布するために調合したインク(右)。調合するときの混ぜ方や比率などで電池の性能が大きく変わります。

触媒などの合成に必要な「電気炉」で1600℃まで昇温できます。実際の電池に使うためにたくさんの材料が必要なので非常に大きな装置を使います。

ギ酸を使った燃料電池の試作機。触媒などの材料開発から多孔質電極の設計や流路設計などを研究しています。

Q ギ酸を次世代の燃料電池の燃料に選んだ理由は？

辻口：従来の燃料電池は水素やメタノールを使いますが、ギ酸はエネルギー密度が高く、液体を用いる燃料電池の課題だったパワー不足を解決できる可能性がありました。また、液体で扱いやすく、爆発の心配がないので安全に貯蔵・運搬でき、CO<sub>2</sub>から合成できるため、循環型社会に貢献できます。

Q ギ酸燃料電池を非常用電源として供給する利点は？

辻口：令和6年能登半島地震で、災害時にどこでも使える電源の重要性を痛感しま

した。災害時には送電網が遮断され、停電が発生することが多くあります。太陽光の電源は天候に左右され、ガソリンの利用は非常用車両に優先されます。ギ酸は貯蔵が容易なため、避難所に常に備蓄しておくことができます。さらに、CO<sub>2</sub>からギ酸を合成する装置と組み合わせれば、孤立した地域内で、ギ酸を合成し、電源を確保できます。現在はギ酸を電極に直接供給する燃料電池の試作機を作製し、電池の寿命やコストの課題に取り組んでいます。ギ酸燃料電池の開発者は国内でも稀なので、優れた燃料電池を社会に実装するために、自ら起業して社会に出たいと思っています。

## 海から貴金属を回収して未来の資源へ

理工研究域物質化学系

眞塩 麻彩実 准教授  
MASHIO Asami



ニスキン採水器と呼ばれるこの容器で海水を採取します。

誘導結合プラズマ質量分析装置を使って、海水中の貴金属を測定します。

ニスキン採水器を使った船上での作業。機器を動かすのは船員さんです。

Q 海の中に貴金属があるのですか？

眞塩：海には白金(プラチナ)などの貴金属が微量に溶けた状態で存在しています。自動車の排ガス浄化装置などに使われるこれらの貴金属は、近年使用量が増え、環境中への放出も増加傾向にあります。特に海中では溶け込んでおり、生物への影響も懸念されていますが、海中での濃度が低いいため実態が分かっていませんでした。そこで私は分析法を開発し、海水中の白金族元素の濃度や分布、環境中での挙動を研究しています。これにより、海洋環境への影響評価や資源循環、リサイクル技術の発展に取り組んでいます。

Q 社会実装を目指すようになった理由は？

眞塩：研究発表のたびに「海からプラチナを回収できないの?」と聞かれるんです。研究に関心を持ってもらうには、社会実装が必要だと感じました。また、日本ではこれらの貴金属は輸入に頼っており、工場排水や海底熱水から効率的に回収できるようになれば、資源確保問題の解決にも寄与できると思いました。すでに、極端な酸性・アルカリ性条件下でも有価金属のみを回収できる金属吸着剤を開発しています。今後、より高性能に改良していきます。市場調査などは未来知実証センターの支援を受け、研究と起業準備を同時に進めています。

## 双性イオン液体が広げる薬の可能性

理工研究域生命理工学系

黒田 浩介 准教授  
KURODA Kosuke



双性イオン液体を使って、凍結防止剤の開発も試んでいます。細胞の活性は止めますが、生きている状態を保つために凍結防止剤が必要になります。

凍結防止剤は、骨髄移植前の造血幹細胞や臍帯血の保存、卵子の保存に使われています。創薬以外でも医療に貢献できる可能性を探っています。

開発した双性イオン液体。世界にここにしか存在しないものもあります。

Q 双性イオン液体はどのように生まれたのですか？

黒田：イオン液体は塩が液体になったもので、第3の溶媒として注目されていましたが、毒性が高いのが課題でした。そこで私は、毒性の低い双性イオン液体を開発し、動物実験で安全性も確認しました。水やエタノールで溶かすことができないものを溶かす溶媒として双性イオン液体を生かせる分野を検討したところ、創薬に着目しました。溶かすことができずに使えない薬が山のようにあります。溶けなければ、注射して血中に入れることもできません。溶かすことができれば、今の倍の薬を世に出せるかもしれません。

Q 金沢大学だからこそ実現できたことは？

黒田：ランチョンセミナーなど異分野の先生方と交流する機会が豊富で、化学から創薬への分野を超えての挑戦を後押ししてくれる環境があります。私の場合、がん進展制御研究所の平田英周教授から、細胞の扱い方を学び、装置も譲り受けるなど、多くの協力を得ました。日常的に多様な分野の方と行き来があります。創薬に、薬として効果を発揮する物質そのものではなく、溶媒のような添加剤から挑む例はほぼありません。だからこそ、強みとイノベーションの可能性があります。好きな研究で社会貢献し、薬で困っている人を一人でも救いたいです。



## Part2 学生アントレプレナーの挑戦

特集 予測不可能な時代への挑戦

挑戦する力は、若者の中にある。金沢大学では、学生が社会課題に向き合い、自らのアイデアを形にすることで自分の未来をデザインする力を養える環境を整えています。アントレプレナーとしての視点を持ち、行動を起こす学生たちは、まさに未来を創る原動力です。ここでは、学生によるプロジェクトや起業への取り組みを紹介します。

### 湧き出るアイデアで生き生きと働ける社会を作りたい

理工学域物質化学類 4年

野村 隆太さん  
NOMURA Ryuta

融合学域先導学類 3年

釣谷 優太さん  
TSURITANI Yudai

#### Q ビジネスコンテストで受賞されたアイデアはどのようなものですか？

野村：2024年度アントレプレナーコンテスト@金沢大学で、Vtuber（バーチャルYouTuber）の収益化を支援する仕組みを提案し、優秀賞をいただきました。

釣谷：2024年学生ビジネスアイデアコンテストM-BIPで、すきま時間に気軽に農業に参加できるサービスを提案し、優秀賞など計4つの賞をいただきました。実家が農家で、高齢化や荒廃地の課題を感じていたこ

とがきっかけです。起業部の仲間と話し合いながらアイデアを形にしました。

#### Q 起業部とは？

釣谷：起業部は融合学域中心に立ち上がった課外活動団体で、起業に関心のある学生が集い、出会う場になっています。

#### Q 野村さんは起業されたとお聞きしました。

野村：はい。VBL(※)を拠点に、株式会社近代を立ち上げました。現在は就活イベントやAIを活用した採用支援を行っています。

また、ベトナムの優秀な人材と連携する海外事業も計画しています。

釣谷：私も社員として、学生に自信を持って紹介できる企業をイベントに集めています。

#### Q 最後に、お二人の夢を教えてください。

野村：労働力不足といった社会課題を解決し、日本に貢献できる会社をつくりたいです。  
釣谷：夢を持つ人を応援できる、誰かの挑戦を支えられる力を持つ存在になりたいです。

※VBL：金沢大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー。教員と学生の起業活動支援と起業マインドの醸成を行っている。

### XRクリニックで未来の医療支援を実現したい

理工学域  
地球社会基盤学類 4年

西 彩華さん  
NISHI Sayaka

融合学域先導学類 3年

中嶋 春輝さん  
NAKAJIMA Haruki

大学院医薬保健学総合研究科  
医科学専攻(修士課程) 1年

石川 悠さん  
ISHIKAWA Yu

#### Q XRクリニック開発プロジェクトとは？

西：生活習慣病などについて学べるXRクリニックを仮想空間につくるプロジェクトです。私が、共通教育科目「健康科学」(担当教員：国際基幹教育院GS教育系・唐島成宙准教授)の受講をきっかけに、VR空間にクリニックを作ろうと試みたのが始まりです。

#### Q 糖尿病の学習ゲームをコンテンツとして作られたとお聞きしました。

石川：糖尿病についてクイズ形式で学べる

ゲームを作りました。糖尿病についての教育入院がコロナ禍で難しくなったことを受け、VRで代替できないかと考えました。e-messe Kanazawa 2024で展示し、行政や企業から興味を持っていただけました。  
中嶋：今年度は、新たなコンテンツとして、AIの心理カウンセラーなども追加できるよう、開発に取り組んでいます。

#### Q 金沢大学ならではの支援は？

西：学術メディア創成センターの支援が大きかったです。VR開発に必要な機材を利

用したり、技術指導を受けました。

石川：唐島先生がハブとなって、学域を超えた連携が生まれています。私も先生から誘いを受けて参加しました。

中嶋：学内のVR、AI、医療を専門とする先生方も参加しており、私たち学生と一体になって進めています。

#### Q 今後の展望は？

西：在学中に地域で使えるサービスにするため、行政や企業と連携しながら、社会実装を目指しています。

## 教えて先生！アントレプレナーシップとは？

OJIMA Kyoko



尾島 恭子 副学長  
(教育改革・企画評価・ダイバーシティ推進担当)

「アントレプレナーシップ」と聞くと華やかなビジネスを連想しがちですが、もっと身近で日常的なものでもあります。「ちょっと不便だな」と感じたことを、「どうすればよくなるか？」と考え、行動に移す力こそが、その本質です。そんな力を一緒に育んでいきましょう。

HASEGAWA Hiroshi



学長補佐(研究力強化・研究支援・産学連携担当)未来知実証センター長  
長谷川 浩 教授

アントレプレナーシップの学びには二つの側面があります。「天才のひらめき」の発想を技術論として会得すること、社会で夢を実現する能力とノウハウを獲得することです。金沢大学で皆さんだけのアイデアを見つけて、よりよい未来と世界をともに創りましょう。

KARASHIMA Shigehiro



国際基幹教育院GS教育系  
唐島 成宙 准教授

アントレプレナーシップとは、異分野の仲間や専門家、企業や自治体を巻き込み、情熱と行動力で未来を切り拓く力です。学生には、共通のビジョンを掲げ、協働を通じて信頼を築き、時に仲間に頼る勇気を育んでほしいです。

SASAKI Yoshitaka



先端科学・社会共創推進機構  
佐々木 淑貴 特任准教授

アントレプレナーシップとは、未知の課題に挑み、仲間と共に価値を創造し続ける姿勢です。学生には、失敗を恐れず挑戦する経験を通じて、未来を切り拓くイノベティブなマインドを育み、自ら行動できる力を磨いてほしいと考えています。



最新ニュースを  
お届け!!

## NEWS&amp;TOPICS

金沢大学の教育・研究に関する取り組みや学生の活躍など、  
注目のニュースをピックアップ。本学の「今」を感じてください。

October 2025

新たな未来価値を創造・展開  
する拠点が本格稼働

6月23日、未来知実証センターの竣工イベントを実施しました。イベントでは、施設のコンセプトやビジョンを来賓の方々に紹介、披露しました。同センターは、1、2階に新たな未来価値を創る文理医融合の研究フロア、3、4階に実証研究の拠点を置き、現在や未来の社会課題の解決に向けた研究シーズをショーケースと称して発信します。5階はスタートアップと大学のイノベーションの拠点となっています。金沢大学は、同センターを新たな知と多様な人材・組織が集う社会共創の場とし、ワンストップで社会実装につなげる支援を展開していきます。



1.竣工イベントの様子  
2.3階のオープンフロアは常に開かれており、多様な共創の場に  
3.「ショーケース」ではさまざまな未来社会を見える化  
4.3階と4階をつなぐ階段ではセミナーの実施も可能

非連続なイノベーションを  
創出し続ける世界的拠点へ

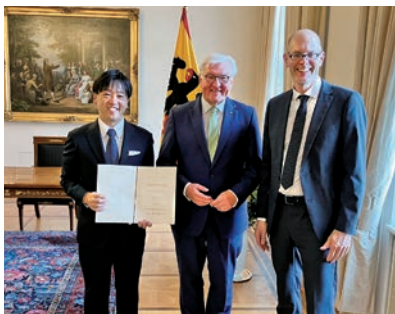
6月23日、未来知実証センターにて、金沢大学J-PEAKSシンポジウムを実施しました。本学が推進する宇宙理工研究拠点やライフサイエンス研究拠点に参画する若手研究者による異分野融合研究に関する発表や、「大学の未来知が世界を変える〜私の夢を人と社会に〜」と題したパネルディスカッションにおいて、スタートアップ経験のある研究者や支援企業の方が、自身の経験や起業に挑戦するマインドについて熱くディスカッションを行いました。



若手研究者3名が分野を横断する融合研究について発表

平野圭一教授がシーボルト賞  
薬学・有機合成化学分野で初

6月26日、医薬保健研究域薬学系の平野圭一教授が、2025年度フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト賞を受賞し、ドイツ連邦大統領より賞状を授与されました。同賞は、日独の文化および社会のよりよい相互理解の促進に特に貢献をした日本の研究者1名に贈られます。平野教授は、有機合成化学分野での革新的な手法を用いた医薬品の研究活動が高く評価されました。副賞として賞金のほか、ドイツでの1年間の研究滞在に招待されます。



ベルリンのベルビュー宮殿にて(左:平野教授、中央:シュタインマイヤードイツ連邦大統領)

3教職員が文科大臣表彰受賞  
科学技術の水準向上に寄与

4月15日、令和7年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を、本学の教職員3名が受賞しました。科学技術に関する研究開発などにおける功績を評価されました。

[若手科学者賞] ナノ生命科学研究所・角野歩助教(受賞時)「高速原子間力顕微鏡によるイオンチャネルの動作機構の研究」、国際日本研究教育センター・ママードウェア アイダ准教授「日本のエコパークとジオパークの世代間学習の研究」、[研究支援賞] 総合技術部・小木曾正造技術専門職員「潜水と操船及び標本作製技術による多様な研究への貢献」



左から角野助教、ママードウェア准教授、小木曾技術専門職員

「採用を増やしたい大学」  
金沢大学が全国1位を獲得

6月11日付日本経済新聞朝刊に掲載された、「採用を増やしたい大学ランキング」(\*)で、金沢大学が全国1位にランクされました。留学生との交流で培われた語学力や、博士人材の育成支援プロジェクト「HaKaSe+」などが注目され、評価につながったようです。本ランキングは、企業が新卒社員として採用実績のある大学の「卒業生の資質・姿勢」「大学の取り組み」を評価した結果から作成されています。

※日本経済新聞社・日経HR共同調査「企業人事に聞いた『卒業生が活躍している大学』調査」



外国人留学生と日本人学生が1つのユニット(男女別)で生活する宿舎では、日常的に国際交流が行われている

特別支援学校生がプラごみの  
問題から新しい学びの扉を開く

2024年、本学附属特別支援学校中学部生16名は、探究課題「海洋プラスチックごみは、どこから海岸に流れ着くのだろうか」に取り組みました。生徒らは、石川県最長河川の手取川の上流から下流の各所を清掃活動しながら、どのようなごみが多いかを調査しました。この調査結果が第19回筑波大学朝永振一郎記念「科学の芽」探究賞を受賞、2025年3月に東京大学で開かれた日本海洋教育学会第2回大会では口頭発表を行いました。特別支援学校の生徒らによる学会での口頭発表は非常にまれで、貴重な機会となり、生徒らは意欲的に取り組みました。発表に感銘を受けたJAXA宇宙航空研究開発機構との協働により、6月16日、オンライン授業も実現しました。今後さまざまな機会に触れながら、学習を通してSDGsを学んでいきます。

1.2021年から継続している海岸清掃活動の中から課題が生まれた  
2.3.今年6月には、株式会社PILOTとの共同の取り組みで、使用済み文具等のリサイクルボックスを本学の各キャンパスに設置  
4.「科学の芽」探究賞を中学生部門から受賞したのは全国初

金沢大生が酒造りの神様の  
「心技」伝えるコラボ酒開発

6月11日、株式会社農口尚彦研究所(石川県小松市)とのコラボレーションにより開発した金沢大学オリジナル日本酒「志」を発売しました。2024年1月から同研究所と協働し、学生プロジェクトメンバーを中心に、オリジナル日本酒の開発を行ってきました。小松市産有機米を使用したこの山廃純米吟醸無濾過生原酒は、同研究所にとって初めて醸す種類のお酒となっています。発売に先駆けて、前日10日



に金沢市内のホテルにて、完成披露記者発表会とレセプションを行いました。レセプションでは、出席した研究者や学生らが完成した「志」を試飲しながら、農口尚彦杜氏と懇談しました。農口杜氏は、「若い方が日本酒に興味を持って、酒造りを学んでくれるのが本当に嬉しい」と語りました。「志」は金沢大学生活協同組合にて20歳以上を対象に、受注販売しています。

1.「酒づくりの神様」と称される農口杜氏とプロジェクトメンバーら  
2.農口杜氏の酒造りの技術や精神を次世代に継承すべく設立された研究所で酒造りを見学  
3.金沢大学オリジナル日本酒「志」。ラベルの「志」は和田隆志学長による揮毫

グローバルに活躍するタフな  
人材を育成する機構が誕生

4月1日、「全学教育・国際共修機構」を新たに設置しました。同機構は、「金沢大学ブランド人材」の育成に必要な、学士課程・大学院課程一貫のリベラルアーツ教育および本学の国際化を見据えた国際共修等を強化・推進することをミッションとし設立した、全学横断型の教育組織です。日本人学生と外国人学生が日常的に共に学修する環境を実現することで、国際的な地域課題、社会課題を解決できる人材を育成していきます。



6月5日、同機構の看板除幕式を挙行





### 3大学が手を取り地方創生 地域の未来を拓く人材創出

5月15日、金沢大・信州大・富山大の共同実施によるローカル越境型実践プログラム「ENGINEインターンシップ」が、「第8回学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード2025」の地方創生賞を受賞。3大学の混合チームが、3地域にまたがる企業の実課題に取り組む、地域・社会課題解決型の実践的教育プログラムです。大学間連携による新しい学びの場の創出と、実社会で通用する思考力・創造力・実行力を育む点が高く評価されました。



全国の1,000を超える法人、1,205件のプログラムの中から大賞・文部科学大臣賞・地方創生賞をそれぞれ1団体が受賞

### 同窓生も、現役学生も 時を越えてつながる場所

本学では4月から、「金沢大学アルムナイプラットフォーム」の運用を開始しました。携帯電話やパソコンから利用登録することで、利用者同士が交流することができます。大学からの最新情報や、同窓会等の情報の発信・収集、組織や興味関心別のコミュニティに参加できるなど、幅広い機能を利用できます。地理的・時間的な制約を超え、同窓生・現役学生・教職員が活発に交流することで、国内外における本学のコミュニティを活性化していきます。



利用料不要。個人情報とは非公開で利用可能です

### 愛子内親王殿下と金沢大生が 能登復興について懇談

5月18日、課外活動団体「金沢大学ボランティアさぼーとステーション」の学生らは、能登地方を訪問中の愛子内親王殿下と、能登復興に関する懇談を行いました。同団体からの被災地復旧・復興支援活動や今後の展望などの報告に、殿下は熱心に耳を傾けられ、関心高く質問されました。懇談は終始和やかな雰囲気で行われ、殿下は学生らに、「お身体にはどうかお気を付け活動なさってください」とねぎらいのお言葉を述べられました。



笑顔で復興への思いを語り合う殿下と学生ら

### 有識者らが金沢に集結、能登 半島を持続的社会的モデルに

8月2日、本学と日本学術会議の共催で、「日本学術会議 in 石川 学術講演会」を開催。「大災害からの復興と持続的社会的モデルを目指して～半島地域からの問題提起」をテーマに、令和6年能登半島地震を始めとする災害への取り組みを検証し、今後の課題を探りました。大学・自治体等からの取り組み報告や、能登の産業で活躍する若手同士の意見交換を通し、災害後の持続可能な社会の構築・実現に向け、新たな視点から理解を深めました。



識者と地域で活動する若手らが一堂に会し、有意義な議論が行われた

## For the resilience and revitalization of Noto

### 能登地方の貴重な文化財を 3Dで後世に伝え、守る

本学資料館は、文化庁Innovate MUS EUM事業の助成を受け、県内の関係機関と連携し、能登の被災文化財のデジタルアーカイブ化を行っています。記録した膨大な3D測量データを3Dモデル化し広く公開することで、より多くの貴重な文化財を後世に伝えたいと考えています。今後に生かしていくため、オリジナルの3Dデータ公開に向け、アーカイブの機能向上に取り組んでいます。デジタルミュージアムは下の二次元コードからご覧いただけます。



中能登町石動山 伊須流岐比古神社 拝殿の3Dモデル

### 学生の力で今できること 能登の未来を支えたい

本学の医療系学生有志からなる団体「石川・能登未来知図」は、2024年2月以降継続的に、能登の被災地にてボランティア活動を実施しています。5月、6月には県内の中高校生対象の「U-25能登サミット」を実施。馳浩石川県知事は学内外から講師を招き、若者にできることについて対話しました。6月28日には大阪・関西万博にて、災害から命を守る人材を育成するため、さまざまな有志団体と協力して行うプロジェクトを発表しました。



U-25能登サミットの様子。講師として登壇した谷内江昭宏理事(左)

### 学生のための連載企画

Entertainment Information  
on Kanazawa University

# Enjoy!!

### Acanthus 学生アワード

2024年夏～2025年夏に学業  
や課外活動で活躍した学生  
を紹介します。

### 医学類2年生の症例報告が 国際学術誌に掲載

2024年、医薬保健学域医学類2年(当時)の相賀耕さんと大岩泰史さんの症例報告がそれぞれ内分科学の国際学術誌『JCEM Case Reports』に掲載されました。2人は、医師を目指し勉強する傍ら、臨床研究にも興味を持って取り組んでおり、現場での疑問を出発点に、エビデンスに基づく医療の発展への貢献を目指しています。



相賀さん

大岩さん

### 日本学生陸上競技個人選手権 陸上競技部選手が優勝・入賞

2025年4月、日本学生陸上競技個人選手権大会で、陸上競技部所属、大学院自然科学研究科博士前期課程2年の谷本沙柚佳さんが女子三段跳びで優勝、大学院人間社会環境研究科博士前期課程2年の水落慶吾さんが男子やり投で8位入賞。谷本さんは目標だった日本一達成、水落さんはけがを乗り越えての快挙です。



谷本さん

水落さん

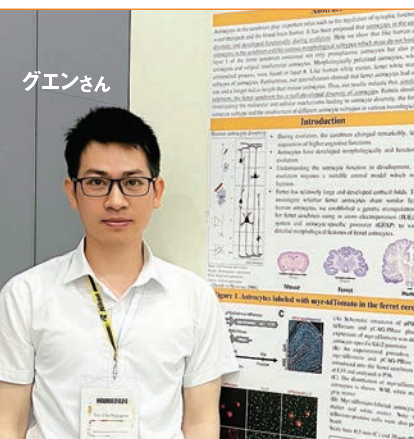
### ナカフクリ食堂に学生起業家が アジア料理店をオープン

融合学域先端学類4年の桜井理翁さんと同3年の長谷川耕晟さんは、2025年4月、ナカフクリ食堂の学生起業スペースに、アジア料理店「HaloHalo(ハロハロ)」をオープンしました。東南アジアへの渡航経験を生かし、本場の味を再現しつつ、日本の食材を使った日本人向けのガバオライスやチャイティーを提供しています。



長谷川さん

桜井さん



ゲンさん



### 脳神経科学研究の学術大会 医学専攻学生が学会賞を受賞

大学院医薬保健学域総合研究科博士課程4年(当時)のゲン チ タイさんは、2024年7月に行われた日本最大級の脳神経科学系の学術大会「NEURO2024」において、フェレットとヒトの脳における細胞構造の共通点に関する研究発表が高く評価され、優秀な若手研究者支援を目的とするアワードを受賞しました。

### フルコンタクト空手道全国大会 実戦空手部が団体優勝

2024年11月に開催された第3回全日本学生フルコンタクト空手道選手権大会において、実戦空手部の6名が初級者の部で優勝・入賞しました。6名とも大学入学を機に実戦空手を始めました。レベル別階級での順位に応じたポイント制の団体戦では、最多得点を獲得し、見事に団体優勝を果たしました。



### 学生団体が大学に提案 感覚にやさしい空間が誕生

どんな感覚特性を持つ人も安心して過ごせる環境の実現を目指す学生団体With Senseは、2025年1月、教職員と協働で、自然科学系図書館にセンサリールームとしても利用できる個室を整備しました。当個室は、遮光カーテンと調光ライトにより五感への刺激を抑え、団体が目指す環境実現への第一歩となりました。



## 課外活動団体

# SNAP

Q

アピールポイントを教えてください

活動を通して目標に向かい、挑戦している学生の皆さんに聞いてみました!

### マンドリンクラブ

Mandolin Club

A

自由な雰囲気の中で、幅広いジャンルの曲をマンドリンで演奏します



### ヨット部

Yacht Club

A

風と波を読み、全日本学生ヨット選手権上位を目指して突き進みます



### ラグビー部

Rugby Football Club

A

地域貢献を通して愛されるチームをモットーにONE TEAMで全国の舞台を目指します



### 吹奏楽団

Wind Orchestra

A

個人の技術をさらに磨き、心をついに、迫力のあるサウンドで全国大会を目指します



掲載しきれなかった情報は大学公式Instagramで随時公開します



KANAZAWAUNIV

### 将棋部

Shogi Club

A

全国優勝経験のある部員を有し、オープンな練習環境と和気あいあいとした雰囲気が強さの秘訣



第80回  
学生名人  
國井大彰さん

### フィルハーモニー管弦楽団

Philharmonic Orchestra

A

学生の本格オーケストラ。大学の式典や地域のイベントで演奏し、ハーモニーを届けています



### 鳥人間コンテスト同好会

Birdman Rally Club

A

理工の知識で独自の機体を制作。鳥人間コンテストでのビッグフライトへ



Acanthus 57号

## Cover Model's Voice

今号のカバーモデル

融合学域観光デザイン学類 4年

ちゅうじょうしおり

中條 菜さん



Photo: Yuji Fujimori

故郷の金沢が大好きだという中條さん。金沢の観光課題の解決に携わりたいと観光デザイン学類へ1期生として入学しました。入学前年度にできた融合学域をPRする活動に4年間取り組み、3年次からは学域広報イベントの企画運営や学生編集長として学域公式ブログの統括をしてきました。趣味はドライブと大相撲観賞。いつか両国国技館で大相撲を観るのが夢なのとか。卒業後はメディア業界に就職予定。「学生生活で培った“伝える力”“聴く力”を生かして頑張ります!」

PRESENT |

金沢大学オリジナル  
QUOカード(500円分)  
10名様



金沢大学オリジナルQUOカード(500円分)を抽選で10名様にプレゼント。今号に挟み込まれている応募ハガキもしくは下記バーコードから応募フォームにアクセスし、アンケートにご記入の上、ご応募ください。

【応募締切】

2026年2月28日

※当選者の発表はプレゼント発送をもってかえさせていただきます。







MIRAIをつくる金沢大学研究情報サイト

MIRAICHI *journal*

## 金沢大学の知を 未来へつなぐ。

金沢大学は、未来の課題を探求し克服する知恵  
「未来知」による社会貢献を目指しています。

「MIRAICHI journal」は、そんな金沢大学の最先端研究を紹介するWEBコンテンツです。多彩な研究成果や社会への貢献をわかりやすく発信し、未来を拓く知の最前線をお届けします。

金沢大学の研究者による新たな発見と挑戦を、ぜひご覧ください。



MIRAICHI journal  
archive here



金沢大学  
KANAZAWA  
UNIVERSITY

